

# YMCA

K U M A M O T O

# NEWS



July 2010  
vol.458



基本聖句 喜ぶ人と共に喜び、  
泣く人と共に泣きなさい  
(ローマの信徒への手紙第12章15節)

**熊本YMCAの使命**

共に生きる社会 地球環境の保全 生涯学習の推進  
ウエルネス活動 ボランティア活動 平和な世界

- ホームページ [www.kumamoto-ymca.or.jp](http://www.kumamoto-ymca.or.jp)
- ブログ [kumamoto-ymca.wablog.com](http://kumamoto-ymca.wablog.com)
- メールマガジン登録 [www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi](http://www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi)



●発行所／(財)熊本YMCA／〒860-8739熊本市新町1-3-8 TEL096-353-6397代  
●編集人／堤 雄二 ●発行人／堤 弘雄 2010年7月1日発行(毎月1日発行)  
1984年8月15日第3種郵便物認可 定価60円(送料60円)

**C O N T E N T S**

- 1・2 いのちと出会いを育むYMCAキャンプ
- 2・3 event report  
学院スポーツデイ/チャリティボウリング大会/  
水前寺幼稚園花の日/むさしYMCA父の日
- 3 水上安全キャンペーン 教職員対象水泳指導講習会  
県高校定時制通信制体育大会 川口さん準優勝  
アガベNo.52 「心の中の戦争と平和」
- 4 Life 第28回  
フードマイレージプランナーアソシエート 宮田敏子さん②  
YMCA NETWORK (地域YMCA情報)  
上通YMCA/東部YMCA/ながみねファミリーYMCA

# 歴史から学ぶYMCAキャンプの方向性 地球市民を目指して いのちと出会いを育むYMCAキャンプ

**熊本YMCAキャンプ関連年表**

年	月	出来事
1920		大阪YMCAが六甲山で日本初の組織的教育キャンプを開催
1950	8	熊本YMCA初のキャンプを長陽村地獄温泉で開催
1952	5	第1回キャンプリーダー講習会を中央公民館及び阿蘇で開催
	8	阿蘇キャンプ(現阿蘇YMCA)開村式
1953	8	6・26熊本大水害被災児童招待キャンプを開催
1957	8	水害被災児童招待一泊キャンプを熊本ワイズメンズクラブと共催
1960	7	第1回肢体不自由児療育キャンプ「小羊会キャンプ」を開催
1961	2	緑化推進隊(後にFTC)結成
	7	第1回知的障がい児療育キャンプ「小鳩会キャンプ」開始
1962	8	市内4ヶ所の母子寮に住む母子家庭の児童を招待して教育キャンプを実施
	10	阿蘇キャンプが日本YMCA同盟から熊本YMCAへ移管される
1962	8	阿蘇町狩尾にYMCA青少年健全育成林を開く
1963	3	青少年健全育成林の第1回植林キャンプを開催
1969	7	幼児キャンプを皮切りに11にのぼる夏期キャンプを実施
1970	1	野外活動クラブ「インディアンズクラブ」が発足
1973	8	ポニーキャンプ(県立盲学校の生徒たちとのキャンプ)を開始



1980	7	聴覚障がい児キャンプを阿蘇キャンプで開催
1981	5	第3回九州地区少年事業リーダー研修会を阿蘇キャンプで開催
1982	8	野外事業30周年記念式典を阿蘇キャンプで開催
1983	7	的石キャンプ場の開所式
1991	7	長崎雲仙普賢岳災害による被災児童の招待キャンプを開催
1992	3	第2期雲仙普賢岳被災児童招待キャンプを開催
	10	野外活動クラブ「わんぱく大学地球クラブ」が発足
1994	4	アースウィーク活動として植林プログラムを開始
1995	4	野外活動クラブ「ロビンフッドクラブ」が発足
1997	12	年越しファミリーキャンプを阿蘇キャンプで実施
1998	4	LD児童支援プログラムの野外活動クラブが発足
1999	7	阿蘇キャンプメインロッジ開館式
	11	第30回全国YMCAリーダー研修会を九州では初の阿蘇キャンプで開催
2000	7	日韓視覚障がい青少年交流キャンプを開催
2001	4	野外活動クラブ「トムソーヤクラブ」が発足(02年4月サタデーツムクラブに改称)
	9	第3回全国痴呆性高齢者キャンプ開催
2002	4	アレルギーを持つ子どものキャンプを開催
	8	阿蘇コスモスキャンプ(自閉症児)を開催
	9	阿蘇キャンプ50周年記念式典を開催

サマーキャンプの季節がやってきました。今年、日本YMCAのキャンプが始まって90年、熊本YMCAのキャンプが始まって60周年、インディアンズクラブ発足40周年という節目の年に当たります。そこで今回は、これまでの歴史を振り返りながらYMCAキャンプの願いや未来について、阿蘇YMCA運営委員の武藤興紀さん、野外教育運営委員の川上安生さんを迎え、野外教育部部長の松田誠一さんとお話をうかがいました。

**自主性を育み友情を深める  
受け継がれるYMCAキャンプの精神**

松田 YMCAキャンプは、一人ひとりの精神・知性・身体の調和を図り、健やかな心と身体を育み、いのちを守ることの大切さを学ぶことを願っています。

川上 インディアンズクラブが誕生した当時は、熱い思いを持った多数のボランティアリーダーが、熊本YMCAの野外教育事業を大いに盛り上げ、発展させてくれた時代だったと感じています。このインディアンズクラブも、当時の

展開されています。日本で初めてキャンプが行われたのは1920年。大阪YMCAが兵庫県六甲山麓で少年たちを集め2週間のキャンプを行ったのが、日本の組織的教育キャンプの始まりです。以来、野外活動を通して対人関係能力や自主性、責任感を育み、よき友との友情を深めるといふYMCAキャンプの意義と目的は、今日も変わることなく受け継がれています。

松田 熊本YMCA初の少年野外活動クラブ「インディアンズクラブ」は1970年1月に発足、当時リーダーだった川上さんはその発起人でいらっしやいますね。

川上 インディアンズクラブが誕生した当時は、熱い思いを持った多数のボランティアリーダーが、熊本YMCAの野外教育事業を大いに盛り上げ、発展させてくれた時代だったと感じています。このインディアンズクラブも、当時の

リーダーたちの熱い思いがあったからこそ、生まれののだと言えますね。そして、現在は時代も変わり参加者の低年齢化や短期キャンプの人気など、キャンプの態様や参加者のニーズは変化しています。

私たちがYMCA関係者も、これを機に、YMCAキャンプの魅力(良さ)とは何かを再検証し、時代や社会が求める新たなキャンプの有様を探求していきたいと思っています。この節目の年あたり、YMCAキャンプの原点に立ち返りながら、今後の方向性を見出し、いかなければならないと思います。

松田 熊本YMCAキャンプは、1950年8月15日、83名の参加者によって阿蘇地獄温泉で開催されたのが始まりです。1952年8月2日には、YMCA阿蘇キャンプの開所式が行われました。熊本YMCAキャンプの精神の場と

なり、インディアンズクラブの拠点となる阿蘇キャンプ(現阿蘇YMCA)は2012年に60周年を迎えます。

武藤 阿蘇キャンプは設備が整った九州初の教育キャンプ場として開設され、当初からリーダーたちはしっかりとプログラムを立て、きめ細かく子どもたちの指導に当たっていました。これまで価値ある歴史を培ってきたと思います。

YMCAキャンプも時代やニーズの変化に対応しなくてはなりません。今求められているのは「キャンプの精神性」だと思います。知恵をめぐらせやり抜く昔ながらのキャンプは、物理的な豊かさに囲まれ、自然体験の機会が少なくなっている今こそ、教育環境として最適なのではないでしょうか。(2面に続く)

**わたしと聖句**



わたしによる福音書第17章20節

もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって「ここから、あそこに移れ」と命じても、そのとおりになる。

たとえ小さくても

「からし種は、砂粒ほどに小さな種ですが、一度、土に蒔かれると、成長して爆発的に大きくなります。それは最も初めから想像もできないほどの成長ぶりです。種は、その中に命を宿しています。だからこそ、そのもたらす結果は計り知れないのです。それがここで主イエスが言われている「からし種一粒ほどの信仰」です。

主イエスは、わたしたちが弱く小さい者であることをよくご存知です。でも主イエスは、その小ささを問題にしておられるではありません。むしろ小さくてもその中に命があるか。神さまがお留守ではないか。そこが肝心の小さくわたしたちに御自身のすべ

てを注ぎ込んでくださいました。十字架と復活の御業がそのことを表わしています。

洗礼を受け、キリストに結ばれて、キリストの命を宿して生きるならば、わたしたちはたとえ小さくても、神さまの御業を生きることが出来ます。その新しい命が、わたしたちの人生に立ち上がる山をも動かすのです。神さまが、小さくわたしたちを信頼して、御自身のすべてを注ぎ込んでくださる恵みを覚えましょう。

日本キリスト教団錦ヶ丘教会  
川島 直道